

研究授業

学年・教科： 高等部2年「国語科（ことば）」
 単元名： 「身の回りの単語や文章を書こう／読もう！」



「ICTの活用 ～タッチスクリーン～」

研究協議の
ポイント

ICT 機器の持つ「即時性」という利点をどんな点で生かしていたかを参加者全員で振り返りながら協議を行いました。
 また、「主体的」「対話的」というアクティブラーニングの視点でも、授業の組立てや展開を振り返り、子どもたちのどんな学びにつながったかを確認しました。



成果

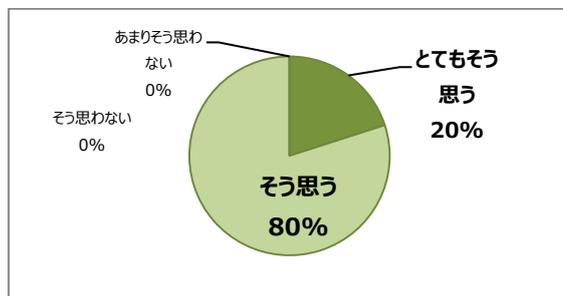
子どもが興味を持って取り組めるようバリエーション豊かな教材を準備し、関心のあるものを子ども自身が選択し学習できる環境を整備することができました。

また、子どもたちが授業に見通しを持てるようにし、安心して、自立して行動できるように、環境を視覚的に分かりやすく整理する『構造化』について、教職員間で効果を共有し、実践を進める土台づくりにつながりました。

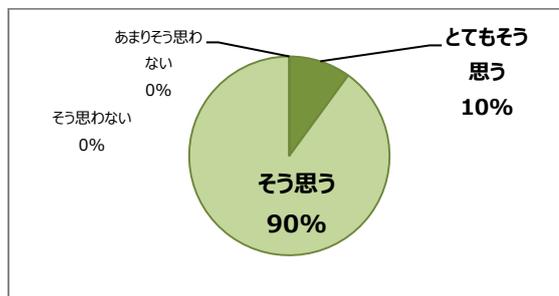
さらに、子どもの個々の実態、また学習グループの特性を把握することで、ICT をより適切に活用することができるようになりました。

アンケート
結果

① 学校のニーズにんでいた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想など)

- ・ 授業力の向上に向けて、校内体制をどう整えるか。その手段の一つとしてパッケージ研修支援を活用させていただきました。指導教諭を中心に進めることができ、若手教員の成長につながったのではないかと考えています。全体研修も全員参加で充実していました。
- ・ 指導主事からの助言や研究協議による意見交換を通して、指導のポイントなどが明確になり、一定の成果があったと感じます。
- ・ ICT 活用についてのアドバイスをたくさんもらえて、ICT について意識を高められた教員がいることは良かったと思う。いつでも新しい情報にアンテナを張って教育に取り入れていける力量をつけることは大事で、その良い機会となったと感じている。
- ・ 研究協議での助言がわかりやすかつポイントを押さえたものでとても良かった。
- ・ その授業の課題や良い点等を具体的に示して頂き有難かった。わかりやすく、自己肯定感を高めながら次への課題に前向きに取り組めた。